

<令和6年3月6日再掲分>

【修正対照表】

概要

P	該当箇所	現行	修正
1	左表 調査設問構成	リスクな心理傾向を測るチェックシート	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート
2	右下図	【別添1】参照	
3	上段枠内 3行目	リスクな心理傾向を測るチェックシート	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート
4	上段枠内 1行目	さらにリスクな心理傾向を測るチェックシートの合計得点も	さらに「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシートの合計得点も
4	中段右グラフ 表題	リスクな心理傾向を測るチェックシートの合計点数	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシートの合計点数
5	上段枠内 8行目	また、「リスクな心理傾向を図るチェックシート」の合計得点についても、	また、「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測る <u>チェックシート</u> の合計得点についても、
5	上段枠内 11行目	「リスクな心理傾向を図るチェックシート」の有用性	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を <u>測る</u> チェックシートの有用性
6	1行目	リスクな心理傾向を測るチェックシート	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート

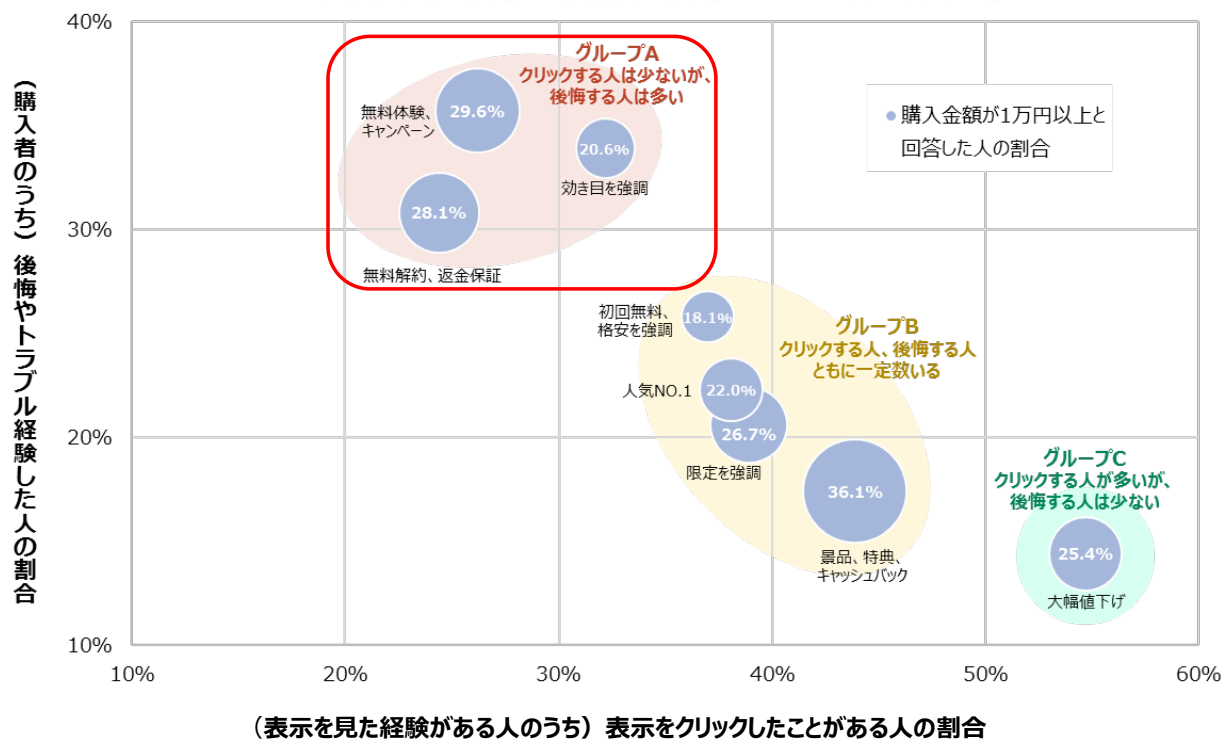
報告書

P	該当箇所	現行	修正
2	目次 2. (3) ⑤	リスクな心理傾向を測るチェックシート	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート
2	目次 2. (5) ②	リスクな心理傾向を測るチェックシート 質問項目間の相関関係	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート 質問項目間の相関関係
8	表2 調査項目	リスクな心理傾向を測るチェックシート	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート
36	上段	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数が	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシートの点数が
36	図40 図上部	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシートの点数
36	図40 表題	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数	「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシートの点数
42	1行目	⑤ リスクな心理傾向を測るチェックシート	⑤ 「 <u>リスクな心理傾向</u> 」を測るチェックシート

42	2 行目	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数について	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数について
42	図 48 図上部	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数×年代	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数×年代
42	図 48 表題	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数×年代	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数×年代
42	図 49	性年代別 リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数	性年代別 「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数
42	図 49 表題	リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数×性年代	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数×性年代
42	脚注 12	「リスクな心理傾向を測るチェックシート」は	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートは
43	表 5 説明変数及び目的変数	リスクな心理傾向を測るチェックシート合計点	「リスクな心理傾向」を測るチェックシート合計点数
63	図 59 表示 8 種の分類	【別添 2】参照	
63	1 行目	② リスクな心理傾向を測るチェックシート 質問項目間の相関関係	② 「リスクな心理傾向」を測るチェックシート 質問項目間の相関関係
64	図 60 表題	リスクな心理傾向を測るチェックシート 質問項目間の相関関係	「リスクな心理傾向」を測るチェックシート 質問項目間の相関関係
67	15 行目	リスクな心理傾向も高い傾向が見られた	「リスクな心理傾向」も高い傾向が見られた
67	16 行目	リスクな心理傾向を測るチェックシートの合計点数	「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの合計点数
109	問 49	今後 1 年間で、あなたがインターネット上のサイトやアプリから商品・サービスを購入・契約した結果、後悔やトラブルに至る可能性はどの程度あると思いますか。 (それぞれひとつずつ)	<u>以下 3 問について、記載の内容が正しいかどうか、あなたの考えを選択してください。(それぞれひとつずつ)</u>
134	図 48 関連のクロス集計表 表題	図 48 リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数×年代(Q50×SQ2)	図 48 「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数×年代(Q50×SQ2)
135	図 49 関連のクロス集計表 表題	図 49 リスクな心理傾向を測るチェックシートの点数×性年代(Q50×SQ1×SQ2)	図 49 「リスクな心理傾向」を測るチェックシートの点数×性年代(Q50×SQ1×SQ2)

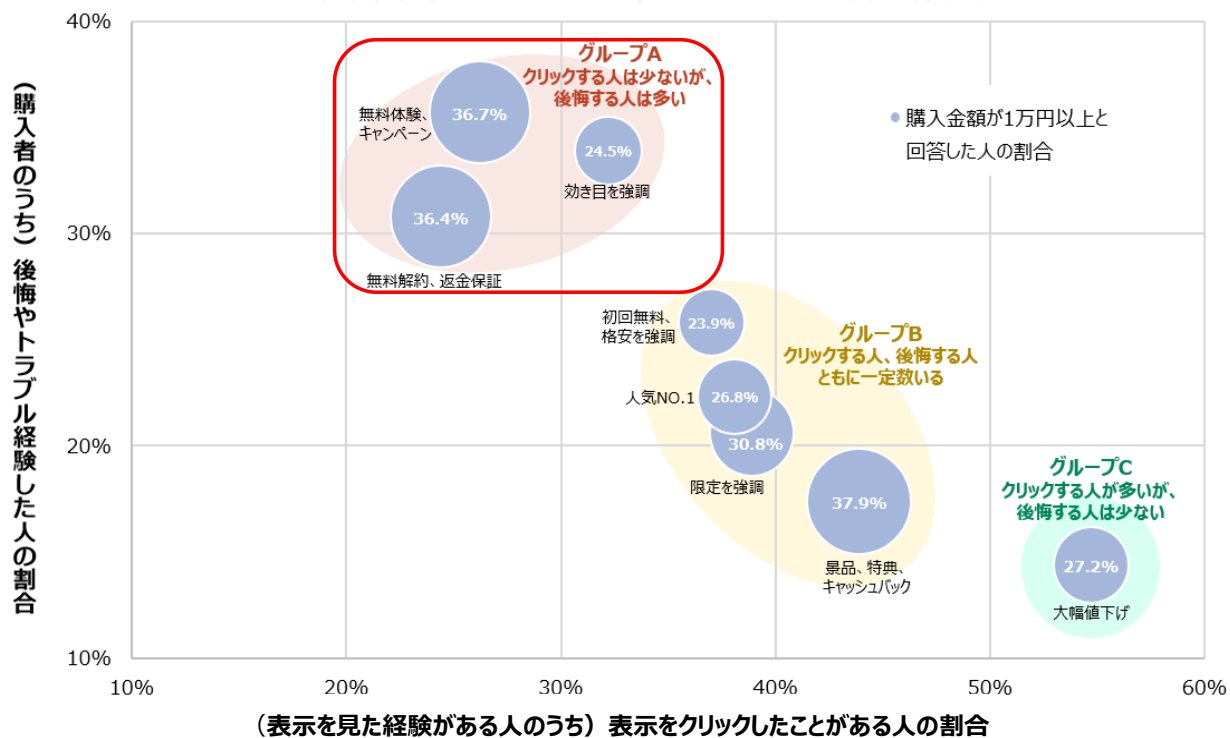
誤

クリック経験率×後悔経験率×1 万以上購入率



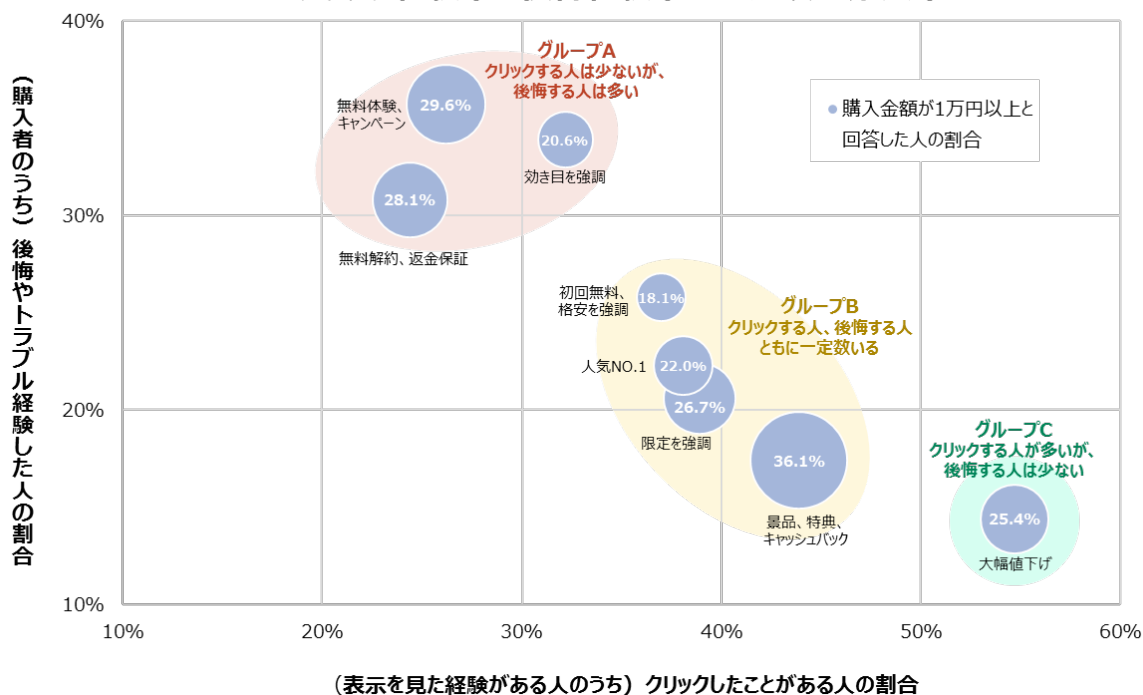
正

クリック経験率×後悔経験率×1 万以上購入率



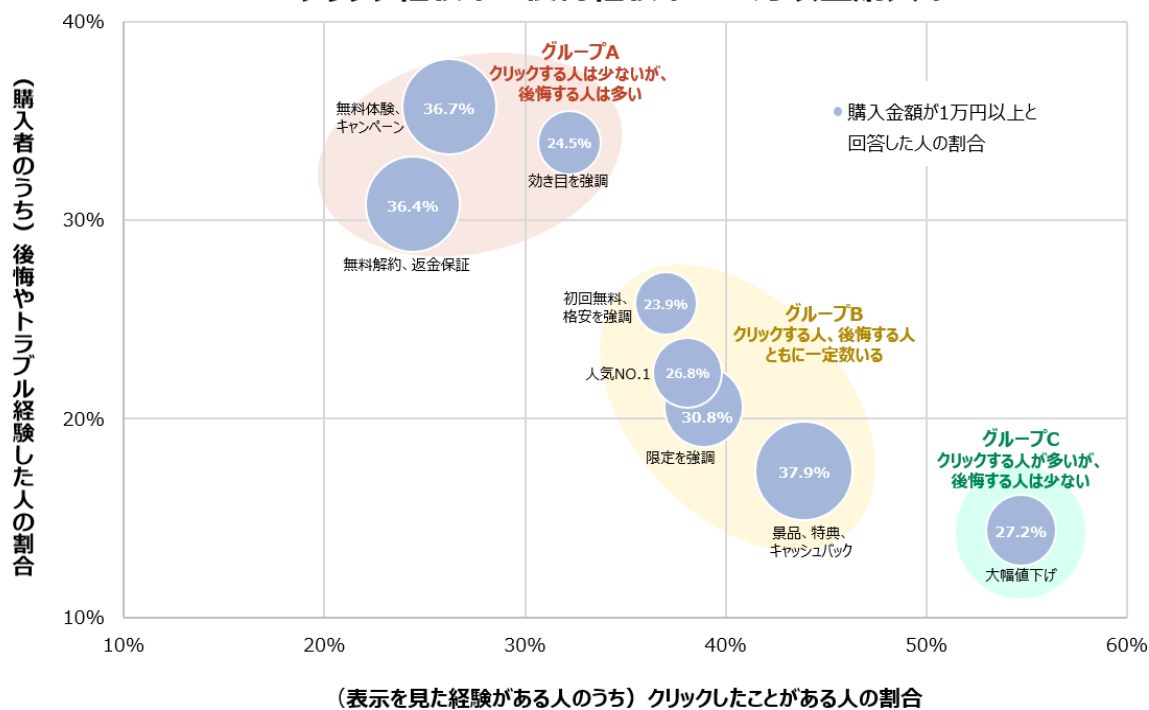
誤

クリック経験率×後悔経験率×1 万以上購入率



正

クリック経験率×後悔経験率×1 万以上購入率



<令和6年6月25日再掲分>

【修正対照表】

概要

P	該当箇所	現行	修正
3	上段枠内 1～2行目	心理特性の観点から、 <u>多くの表示内容に共通して、うつ傾向が高い者や喫煙者の場合に後悔・トラブルを経験しやすい。一方で、主観的な社会的地位が高い者や注意力が高い者ほど後悔・トラブルを経験しづらいことが分かった。</u>	心理特性の観点から、主観的な社会的地位の高さや注意力の高さと後悔・トラブルの経験の有無には関係がみられた。
3	上段枠内 3行目	合計点数が高いほど、後悔・トラブルを経験しやすいこと等が分かった。	合計点数と後悔・トラブル経験の有無には関係がみられた。
5	上段枠内 9行目	心理特性の観点からは、 <u>うつ傾向が高い者や喫煙者の場合に後悔・トラブルを経験しやすい一方で、主観的な社会的地位が高い者や注意力が高い者ほど後悔・トラブルを経験しづらいことが分かった。</u>	心理特性の観点からは、主観的な社会的地位の高さや注意力の高さと後悔・トラブルの経験の有無に関係がみられた。
5	下段枠内 1～2行目	<u>うつ傾向の高い人には、日常生活支援等を通して本人の精神状態を安定させることや、精神が不安定なときに契約しないよう見守るなど、その周囲の人を巻き込んだ啓発の必要性があるのではないかと推察される。</u>	(削除)

報告書

P	該当箇所	現行	修正
45	2～3行目	多くの表示内容に共通して、 <u>うつ傾向が高い人や喫煙者は後悔・トラブルを経験しやすく、主観的な社会的地位が高い人や注意力が高い人は後悔・トラブルを経験しづらいことが分かった。</u>	多くの表示内容に共通して、主観的な社会的地位の高さや注意力の高さと後悔・トラブルの経験の有無には関係がみられた。
45	5～6行目	「主観的トラブル遭遇可能性」が <u>高いほど、後悔・トラブルを経験しやすいことも明らかとなった</u>	「主観的トラブル遭遇可能性」に <u>ついて、後悔・トラブルの経験の有無と関係があることも明らか</u>

		(表 6)。	となった (表 6)。
48	表 7 変数の概要 (性別)	0=男性, 1=女性 ※女性の方が後悔・トラブルを経験しづらい	0=男性, 1=女性 ※女性であることと後悔・トラブルの経験の少なさとの間に関係がみられた
51	表 9 変数の概要 (性別)	0=男性, 1=女性 ※女性の方が後悔・トラブルを経験しづらい	0=男性, 1=女性 ※女性であることと後悔・トラブルの経験の少なさとの間に関係がみられた
65	24～31 行目	一方、 <u>心理特性の観点では、2. (4) ②で示したとおり、多くの表示に共通して、うつ傾向が高い人や喫煙している人ほど後悔・トラブルを経験しやすい傾向がみられている (表 6)。ここでの「うつ」とは、うつ病などの疾患を発症しやすい、不安を感じやすい傾向がある人物を指しており、精神的に不安な状態での購買行動は後悔・トラブルに至りやすいことが示唆された。喫煙者については解釈が難しいものの、喫煙を止めることができないという側面がある</u> とすれば、 <u>自分自身をコントロールすることが難しい人物である可能性も考えられる。</u> <u>また、過去に後悔・トラブル経験がある人ほど、</u>	一方、過去に後悔・トラブル経験がある人ほど、
65	脚注 17	ロジスティック回帰分析において、説明変数に「セルフコントロール」を含めていたが、有意 ($p<0.05$) な結果はみられていない。	(削除)
66	16～17 行目	購入する本人への消費者教育はもちろんのこと、 <u>うつ傾向の高い人には、日常の生活支援等を通して本人の精神状態を安定させることや、精神が不安定なときに契約しないよう見守るなど、その周囲の</u>	購入する本人への消費者教育はもちろんのこと、周囲の人を巻き込んだ啓発の必要性があるのではないかと推察される。

		人を巻き込んだ啓発の必要性があるのではないかと推察される。	
67	10～11 行目	また、心理特性の観点では、多くの表示内容に共通して、 <u>うつ傾向が高い者や喫煙している者ほど後悔・トラブルを経験しやすい一方で、主観的な社会的地位が高い者や注意力が高い者ほど後悔・トラブルを経験しづらいことが分かった。</u>	また、心理特性の観点では、多くの表示内容に共通して、 <u>主観的な社会的地位の高さや注意力の高さと後悔・トラブルの経験の有無に関係がみられた。</u>

以 上